



食安監発第 1113001 号
食安基発第 1113001 号
平成 19 年 11 月 13 日

各

都	道	府	県		
保	健	所	設	置	市
特	別	区			

 衛生主管部（局）長 殿

厚生労働省医薬食品局食品安全部監視安全課長

基準審査課長

割りばしに係る監視指導について

割りばしに残留する防かび剤等の監視指導については、平成 15 年 1 月 21 日付け食監発第 0121001 号・食基発第 0121001 号「割りばしに係る監視指導について」により、貴職において実施されているところですが、今般、厚生労働科学研究費補助金食品安全確保研究事業の研究成果を踏まえ、割りばしに係る防かび剤等の残留等に係る試験法を改めるとともに、これまでの溶出実態等を踏まえ、限度値の引き下げ等を行い、下記のとおりとすることとしたので、御了知の上、運用に遺憾のないよう御配慮願います。

なお、貴職において検査を実施した場合には、防かび剤等の検出の有無にかかわらず、検査結果を別添様式にて当職あて御連絡願います。

また、平成 15 年 1 月 21 日付け食監発第 0121001 号・食基発第 0121001 号については、本日をもって廃止します。

記

1 検査

(1) 検体採取

同一と考えられるロットを特定した上で、当該ロットを代表する検体を任意の 3 カ所から 1 膳ずつ採取する。

(2) 検査項目

① 防かび剤

- ア オルトフェニルフェノール (OPP)
- イ チアベンダゾール (TBZ)
- ウ ジフェニル (DP)
- エ イマザリル

② 二酸化硫黄又は亜硫酸塩類

(3) 検査の方法

別紙1、2に示す方法又はこれらと同等以上の性能を有すると認められる試験法とする。

2 措置

試験の結果、次の場合には、当該製品の販売者（輸入者を含む）に対して当該製品が流通することのないよう自主的な措置等を講ずるよう指導すること。また、その際には、速やかに厚生労働省医薬食品局食品安全部監視安全課あて連絡すること。（下表参考）

(1) 防かび剤

3膳のいずれかの検体において、防かび剤が検出された場合。

(2) 二酸化硫黄又は亜硫酸塩類

3検体の溶出量の平均値が1膳当たり4mgを超えた場合。（この場合、3検体の溶出量の平均値は、小数点以下第一位を四捨五入する。）

表. 防かび剤等の1膳当たりの限度値

検査対象物質	1膳当たりの限度値
オルトフェニルフェノール チアベンダゾール ジフェニル イマザリル	不検出
二酸化硫黄又は亜硫酸塩類	4 mg ^註 （二酸化硫黄として）

(注) FAO/WHO合同食品添加物専門家委員会 (JECFA) で評価された二酸化硫黄の許容一日摂取量 (ADI) 0.7mg/kg 体重/日を、成人 (体重50kg) 当たりの許容摂取量に換算した値を基に、食品添加物として摂取する量や、割りばし中に残留する二酸化硫黄濃度の調査結果を考慮して設定した。

3 その他

関係事業者に対し、製造工程においてタルクを使用する場合には、食品、

添加物等の規格基準（昭和34年厚生省告示第370号）に定められた食品添加物の規格基準に適合するものを使用するよう指導すること。